

03

March
2025

[月刊] キリスト教書評誌

本の

HON-NO-HIROBA

ひろば

ISSN 0286-7001

一般財団法人キリスト教文書センター

1957年7月17日第三種郵便物認可

2025年3月1日発行(毎月一回1日発行)第807号

出会い・本・人

挿絵の一つさえ見せなかった先生の読み聞かせ
吉岡恵生

特集シリーズこの三冊!

キリスト教の視点で読むマンガならこの三冊!

鈴木 光

本・批評と紹介

イルゼ・テート著/岡野彩子訳 善き力 平林孝裕

馬淵 彰、平松英人編/キリスト教史学会監修

黎明期のキリスト教社会事業 今井小の実

フランシスコ会日本管区監修/小高 毅編訳

聖ボナヴェントゥラ著作選集 松村良祐

朝岡 勝著 読みつつ生き、生きつつ読む 石原弘知

吉田 新著 聖書註解 ペトロの手紙一 石田 学

N・T・ライト著/本多峰子訳 イエスに従う 岩上敬人

鈴木道也著 違いがありつつ、ひとつ 佐藤司郎

◆ 近刊情報

◆ 書店案内

日本語で書き下ろす聖書注解シリーズ、好評刊行中！

VTJ旧約聖書注解 NTJ新約聖書注解

5つの
特長

- ① 日本語で書き下ろされており、読みやすい
- ② 原典の文書・文体・文法・語彙の特徴がわかる
- ③ 聖書各書の歴史的・文化的・社会的背景がわかる
- ④ 先入観に支配されず、聖書が提起している問題を理解できる
- ⑤ 聖書の理解を通して、現代社会への深い洞察を得ることができる



VTJ旧約聖書注解

2025年2月25日刊行予定

列王記上 17章 ～ 列王記下 2章

山我哲雄◎著

預言者エリヤの長大な物語を扱う。「サレプタのやもめ」「バアル預言者との対決」といったテキストの根幹となる伝承やそこに加えられた編集を丁寧に考察。旧約聖書における一神教的神観等についてのコラムも充実。◆A5判 上製・450頁・定価7,700円

シリーズ案内

VTJ 旧約聖書注解

出エジプト記 1～18章

出エジプト記 19～40章

鈴木佳秀 各定価4,840円

申命記

鈴木佳秀 定価8,580円

サムエル記上 1～15章

勝村弘也 定価7,260円

列王記上 1～11章

列王記上 12～16章

山我哲雄 各定価5,280円

コヘレト書

小友 聡 定価3,520円

イザヤ書 1～12章

大島 力 定価4,400円

エレミヤ書 1～20章

大串 肇 定価9,240円

NTJ 新約聖書注解

ルカ福音書 1章～9章50節

嶺重 淑 定価5,720円

ガラテヤ書簡

浅野淳博 定価6,600円

エフェソ書簡

山田耕太 定価5,280円

第1、第2、第3ヨハネ書簡

三浦 望 定価6,600円

ルカ福音書 9章51節～19章27節

嶺重 淑

2025年3月 刊行予定



挿絵の一つさえ見せなかつた先生の読み聞かせ

吉岡恵生

勉強は苦手、読書も苦手、難しい本はもつと苦手な私です。そんな私でも、忘れられない本との出会いが与えられていたことを、本稿の執筆に際して思い出すことができました。

小学4年生の頃、担任の先生が毎日読み聞かせをしてくださったのです。選ばれた本は『ルドルフとイッパイアッテナ』（斉藤洋作、杉浦範茂絵、講談社1987年）。改めて調べて見ると、274ページからなる割と分厚い児童文学書でした。おもしろいところまで進んでは、「今日はここまで、続きはまた明日」と言われて終わります。続きが楽しみでしかたなかつたのを覚えています。

この本は、ルドルフという飼い猫が体験する、壮大な冒険を描いています。その冒険の中で、ルドルフは一匹の野良猫と出会うのです。名前を聞くと「イッパイアッテナ」と答えが返って来ました。野良猫は、「色々な名前がある」と言いたかったのですが、ルドルフは「イッパイアッテナ」を名前だと受け止

め、そのまま二匹は友情を深めながら行動を共にするようにります。

先生は、挿絵の一つも見せることなく、ただひたすら朗読をされて、物語の中に、壮大な冒険に、私たち生徒を惹き込んで行きました。想像力を掻き立たてられ、豊かな情景が目の前に映し出されて来るような感覚を覚えました。

なぜ先生が、この本を私たちに読み聞かせてくださったのか、その理由を最後まで聞くことはありませんでした。しかし今は、そのねらいが分かるような気がします。

人生とはまさに冒険であり、明日何が起こるのか分からない、期待と不安の連続です。その不確実性の中を生きる時に大切なことは、絶えず目に見えないところにまで想像力を働かせること。見えないものを見ようとする力です。今、そう思えるのは、あの読み聞かせの時間があつたからなのだと気付かされるのです。
（よしおか・やすたか 日本基督教団高槻日吉台教会牧師）



▼シリーズ この三冊！

キリスト教の視点で読むマンガなら

この三冊！

鈴木 光

(すずき・ひかり…日本キリスト教団勝田教会牧師)

もうすぐ春ですね。

別れと出会いの季節、いかがお過ごしでしょうか。今回はマンガ大好き牧師の私から、お勧めの三作品を紹介させていただきます。皆さんと新しい作品との出会いになれば幸いです。

最初は絶対これ。『ヴィンランド・サガ』（幸村誠、講談社、アフタヌーンコミックス）です。

舞台はヴァイキングたちが北欧の海を荒らしまわっていた時代。主人公の

トルフィンが「戦い、殺し、奪い、戦死すること」を美德とするヴァイキング

（戦士）となることを夢見る少年でした。ところが、彼のお父さんはなぜか戦うことを好まない男なのです。父親に不満を持ちながら育つトルフィン少年でしたが、やがてある出来事から父親がかつて最強の戦士であったことを知るのです。

「本当の戦士には剣など要らぬ」（第2巻二一頁）

しびれるセリフを残し、しかし家族

を守って命を落とした父親の仇を討つことを心に決めて、トルフィンは育ちます。それが終わらない復讐の連鎖の始まりでした……。

好きな人にはもう面白そうと思ってもらえるでしょうが、このマンガの本当の魅力はこれが単なるバトルものや歴史ものではないところです。トルフィンは多くの戦いや出会いをおし、この連鎖を断ち切るために生きようと変わっていくのです。

「お前がこの先 恨みと怒りに押し潰されそうになったとき…… イエス様の言葉を思い出すんだ 人を赦しなさい 赦す心だけがお前を救ってくれる」（第17巻七六―七七頁）

これは作中のとある登場人物のセリフそのままです。言っておきますが、このマンガはまったくキリスト教的話が中心の内容ではありません。しかし、ストーリーの途上で何の違和感も

なく上記のセリフは出てくるのです。これは一体誰が、どんな状況で言ったと思いますか？

ぜひご自分で読んで確かめてみてください。

『ヴィンランド・サガ』は完結間近と作者がSNSで語っています。どんな結末を迎えるのか目が離せません。

二つめは『推しの子』（赤坂アカ×横槍メンゴ、集英社、ヤングジャンプコミックス）です。

YOASOBIの楽曲をはじめ、アニメ化も実写化もされてメディアミックス大盛況中の当作ですが、原作のマンガは昨年末に完結しました。これがまた最後まで飽きさせない展開で面白かった！

こちらの舞台は現代の日本。カリスマ的なアイドルのファンだった男性と少女が、それぞれ命を落とし、転生し

て、そのアイドルの双子の赤ちゃんとして産まれるところから物語の本体は始まります。

え。何言ってるかわからない？ 大夫、実際にマンガを読んでみると意外とスツと入ってきます。

やがて母親であるそのアイドルは殺されてしまうのですが、その犯人はいったい誰なのか……。転生した二人もやがて芸能界で活躍しながら、真犯人を探していくのです。

そんなわけで物語の軸は転生アイドルミステリーという斬新なスタイルで展開するので目が離せませんが、やはり魅力はそれだけではありません。アイドルとなった主人公二人の活動をとおして、音楽、動画配信、映画、舞台、プロダクションなど、現在の日本の芸能業界の様々な場面を切り取って興味深く描き出しているのです。

たとえば、マンガやアニメの原作を

ミュージカル舞台化する「2・5次元」と呼ばれるジャンルが近年はかなり根付いてきました。私も初めてマンガがミュージカルになると聞いた時は想像もつかず困惑しましたが、『推しの子』でそういった2・5次元系の舞台が扱われているのを読んで、「そういう世界なのか！」と本当に勉強になりました。

とはいえ、ここまではキリスト教視点とは関わりなさそうにみえるでしょう。しかし、実はこのマンガの中心テーマの一つである「アイドルとは」というところが、文字どおりの「Idol」すなわち「偶像」というものの核心に鋭く斬り込んでくるのです。

私は牧師のかたわらキリスト教系の大学で講師もしているのですが、キリスト教倫理の授業で十戒を扱っています。ちょうどその授業で「あなたはいかなる像も造ってはならない（出エジ

プト記二〇章四節」をとりあげる日に、通勤中読んでいたのが『推しの子』でした。すると、こんな言葉が作中に出てきたのです。

「奇麗で清楚で純粋で　どんな人間も深く愛し裏切らない　誰もが愛せる愛玩動物のような人間　そんな人の醜い欲望を詰め込んだような存在に『偶像』にさせられた」(第14巻一一五―一一六頁)

最高の教材ですね。そのままその日のクラスで『推しの子』と上記の言葉を紹介しました。

コロサイの信徒への手紙三章五節には「貪欲は偶像礼拝にほかならない」とあります。偶像の本質は神様ではない何かを神様としてしまうことです。人は自分の欲望を投射する対象として偶像を造り出しますが、その実態はまさに自分自身の貪欲そのものだと言えます。アイドルを「アイドル」とはよ

く言ったものです。

物語のミステリーの真犯人は確かに存在するのですが、陰の犯人は人の飽くなき欲望か、はたまたそれを操る悪魔の働きのなか……妄想は膨らみます。

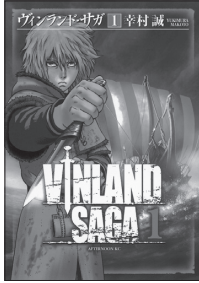
さて、最後に紹介したいのは『チ。地球の運動について』(魚豊、小学館、ビッグコミックス)です。

副題から推察できるとおり、いわゆる「地動説」を巡る人々の物語を描いています。ところが地動説で有名なコペルニクスやガリレオが主人公というわけではありません。彼らにつながる「こんな研究者たちがもつと前の時代からいたとしたら……」という設定の純粹なフィクションのマンガなのです。物語は苛烈な弾圧をする異端審問官と、それでも真理をあきらめずに探求する研究者たちの世代を超えた戦いを描いて進んでいきますが、あくまで

フィクションなので史実ではまったくありません。ただ、このマンガのすこいところは物語に惹きこむ力がありすぎて、フィクションなのにまるでリアルヒストリーに見えてきちゃうところ

です。ちなみにマンガの中で天動説を真理として強制しているのは「C教徒」の人々です。ええ、キリスト教徒とは一言も書いていませんよ。ですが、やはり頭文字で略せばC教徒になる私たちに投げかけているものは多いので、まんなまと異にはまっているような気がして悔しいですが、喜んで紹介したいと思います。

既に作品は全八巻の単行本で完結していますので安心して手を出してください。内容的には「信仰と科学」みたいな基本的なテーマはもちろん、學術研究、政治、経済、哲学といった要素まででんこ盛りです。「もう、作者さ



『ヴィンランド・サガ』

(1～28巻)

幸村誠：著
講談社（アフタヌーンKC）
2005年～連載中
B6判
726円～847円

んたら欲張りなんだから」と思いますが、それを一人の主人公ではなく、多種多様な考えや立ち位置の登場人物の群像劇という形で描くことで、巧みに成立させているのがまたスゴイのです。C教徒も信仰に疎い人間の描く、つまらないステレオタイプで扱われてはいません。むしろ登場人物のほとんどが（例外はありますが）C教徒なので、神を信じていることは言うまでもない



『推しの子』(全16巻)

赤坂アカ×横槍メンゴ：
著
集英社（ヤングジャンプ
コミックス）
2020～2024年
B6判
693円～990円

前提で、その中の細かな違いや個性が描かれているのが秀逸なのです。読んでいて思想的にちょっとイラつかされながら、同時に登場人物の誰かの考えや言葉に思わず共鳴したりする、ひよっとしたらクリスチャンの読者こそ一番楽しめる作品かもしれません。ちなみに私が一番共感したのは、敵キャラと思ってた異端審問官の一人がメインキャラを助けるために命を懸け



『チ。—地球の運動について—』(全8集)

魚豊：著
小学館（ビッグコミックス）
2020～2022年
B6判
770円

るシーンで発した一言です。「……C教って、なんだと思いますか？ 僕は生き方だと思えます」（第5巻一二〇～一二一頁）アーメン。私たちの信仰は世間のイメージする「宗教」ではなく、イエス様と生きる生き方だと私も思います。あなたの生き方に影響を与える素敵なマンガとの出会いをお祈りします。

ボン・ヘッファアの生涯と課題を

めぐりに描出

〔評者〕 平林孝裕

本書はイルゼ・テートによる同名の著書の翻訳である。夫ハインツ・エドゥアルド・テートの死後、『ボン・ヘッファー全集』の総編集者に就いたイルゼ氏が、さまざまな機会に行った講演を集めたものである（とくに第3章は、テートが来日した際に日本で行った講演である）。そのような成り立ちであるが、講演本文は見直されて一貫した著作として読めるように整えられている。テキストを知り尽くした著者が「言葉で描き出した12章」はボン・ヘッファアの生涯の歩みにしたがって配列されており、「伝記」（岡野）としても読むことができる。ただし、著書も注意するよう「ユダヤ人問題」「成人性」ほか、いくつかの主要な論点は論究されない。その制約を別にすれば、年譜などの資料も整えられて読者に親切な著作となっている。

ボン・ヘッファアの生涯を概観した「『善き力』に不思議に



善き力

ボン・ヘッファアを描き出す12章

イルゼ・テート著

岡野彩子訳

守られて……」（第1章）に始まり、その死を扱った「死と復活」（第12章）で結ばれるが、本書を貫いているのは「善き力に不思議に守られて……」（『讚美歌21』四六九番参照）という婚約者マリア・フォン・ヴェーデマイアー宛の手紙に記された一編の詩である。

本書は前半6章と後半6章に分かたれるように思われる。前半では、ボン・ヘッファアがいかに聖書に聴いたかが描き出されている（第4章はまさに「ボン・ヘッファアの生涯における聖書」である）。その態度は一言でいうなら「幼子のように」、ボン・ヘッファアの言い換えでは「子どもとして」である（第2章「子どもたちの友」）。「反省的」な態度に「直接的」な態度が対置され、「単純な」従順が導かれる。ドイツを逃れてアメリカに渡っていたボン・ヘッファアが、聖書の言葉「冬が来る前に……」（Ⅱテモテ



N・T・ライトによる子どもから
大人まで楽しめる聖書物語

わたしの 聖書物語

神さまの大きいなる計画



N・T・ライト：著

ヘレナ・ベレス・ガルシア：画
標珠実：訳

天地265×左右215mm

厚さ24mm 296頁

税込価格 **3,960** (3,600+税)円

ISBN978-4-8202-9288-3

英国の著名な神学者 N・T・ライトが贈る今までにない聖書物語。創世記からヨハネの黙示録までのそれぞれの小さな物語がひとつの大きな物語——すべてを正しい姿にもどし、天と地をひとつにするという神さまの大きいなる計画——を織りなしています。



お求めは全国のキリスト教専門書店
お問合せ ☎03(3567)1987(頒布部)
<https://www.bible.or.jp>

(四六判・三二六頁・定価三九六〇円・新教出版社)

四・二二)を機縁に、わずか一カ月で帰国する決断を下したことは、つとに知られる。「ボンヘッファーとテモテ」(第六章)では、ボンヘッファーが聖書の言葉にどのように聴いてきたが鮮やかに「描き出」される。後半では御言葉にいかに従うかが焦点となる。それは「冒険」(第3章)でもある。具体的に何が神の御心であるかを「見きわめ」(第7章)、行動するにしても、「二重の光」の中で責任を引き受けつつ決断されるからである(第8章、第9章)。評者が興味深く読んだのは「『聖なること』は難しい？」(第11章)であった。本章では「聖化」をめぐるカール・バルトとボンヘッファーのやり取りが「描き出」される。バルトもボンヘッファーも互いの見解に懸念をもっていたが、私たちは夫テートの言葉のように

「どちらかを一人を選ぶ必要はない」(第3章)。むしろ自分の課題として「(義認と)聖化」について思いめぐらすべきであろう。『ボンヘッファーの人間学』で学位を取られた岡野彩子の翻訳は、文章が簡潔に分けられており非常に読み易かった。訳語も工夫され、たくさんのルビが付されたおかげで原文の趣きを味わうことができる。本書はもともと山崎和明先生と共訳する計画であったという。岡野氏がこの訳業を果たされたことを先生も喜ばれていると思う。二〇二四年はバルメン宣言から九〇周年であった。そして二〇二五年はボンヘッファー没後八〇年となる。世界が暴力・戦争で混迷を深める中、時宜を得た出版に感謝したい。(ひらばやし・たかひろ 関西学院大学教員)

慈善を実践するキリスト者の 信仰の内面を描き出す

〈評者〉 今井小の実

皆さんはコナン・ドイルの『唇のねじれた男』という物語をご存じだろうか。探偵を訪ねた御婦人の夫が実は「物乞い」で一家を支えていたという、現代では想像しがたい話である。ホームズが活躍したビクトリア時代のイギリスでは繁栄の陰で貧富の格差が深刻化していた。また貧困は個人の責任とされ、かつ救貧費の高騰もあり、ポーパー(Pauper)にはもはや「神の貧民」というまなざしは向けられない。それでも冒頭の話にリアリティがあったのは、チャリティが社会のなかで一定の市民権を持っていたからである。それゆえに民間の慈善事業が活発に行われ、慈善組織協会(COS)も生まれたのであった。社会福祉の通説では、この時期のイギリスは資本主義が進行し、従来の救貧法体制の限界から、貧民救済が教区から本格的に行政へと移行していく時期にあたる。



黎明期のキリスト教 社会事業

近代都市形成期における挑戦と苦悩

馬淵 彰、平松英人編
キリスト教史学会監修



本書の対象となるのは、キリスト教の隣人愛(カリタス)による慈善に支えられてきた救貧事業が産業化・工業化に伴い、教会や修道院から自治体や国へと移り、「世俗化」が進んだ一八世紀から二〇世紀初頭の社会である。しかしそれはイエスの教えにそった信仰心や隣人への同情心からというよりも、市民としての道徳的義務が涵養された結果であった。本書は、このような時代において、慈善を実践する敬虔なキリスト者が苦悩する姿を描き出した。

第一章「慈善活動でのJ・ウェスレーとW・ブースの『信仰ゆえの苦悩』」では、一八世紀のメソヂスト派創設者ウェスレーと、一九世紀後半、救世軍を創設したブースを比較し、彼らの慈善活動があくまでも福音と結びついた「聖化」にあったことを検証した。

第二章「近代黎明期のドイツ都市におけるキリスト教社

会事業」では、一九世紀後半のカトリックの二都市における慈善活動の変遷を比較した。救貧事業の拠り所が、アーヘンではキリスト者としての信念にあったのに対して、ケルンではリベラルな議員らが議會をリードし市民的エートスへと移行していった様子が明らかにされた。

第三章「一九世紀中盤～二〇世紀初頭英米の慈善事業とキリスト教」では、イギリスで孤児事業を行ったG・ミューラーと、アメリカでセツルメント事業を行ったJ・アダムズの実践を、信仰面に焦点を当て比較した。そしてミューラーの実践が「世俗化」への抵抗だったのに対し、アダムズは逆にそれによって慈善を社会事業へと転化させたと結論づけた。

第四章「海を渡るキリスト教社会事業」では、一八世紀

を中心に特に貧しい子ども教育事業をめぐるドイツ（ハレ、ハンブルク）とイングランド間の交流を主にルター派のつながりからとりあげ、貧民のための宗教的教育から、しだいに勤勉な市民を養成する教育へと反転した状況を明らかにした。

本書のベースとなったのはキリスト教史学会のシンポジウムである。これまで社会福祉学界の歴史研究では、その発展にキリスト教が寄与した表面的な事実のみは明らかにされても、信仰の内面まで踏み込んだ研究は決して多くなかったように思う。社会事業黎明期の慈善活動に対する「信仰ゆえの苦悩」を描いた本書はキリスト者の内面を可視化し、新たな福祉の歴史像を提供してくれる一冊である。

(いまい・このみ 関西学院大学教授
A5判・一六八頁・定価三三〇〇円・教文館)

聖書の基礎知識 新約・旧約外典篇

C・ヴェスターマン／F・アーヒウス J・ヴェーネルト 協力 吉田忍 訳



新約聖書に収められた各文書はいつ、誰によって書かれ、どのような構造であるかなど、読む上で知っておきたい基本的な情報を凝縮。他の聖書箇所との関連性を示す注も充実。旧約聖書外典にも簡潔に触れる。

A5判上製・224頁・定価4400円

聖書における和解の思想

左近 豊 編



現代世界の最重要課題である「和解」。異なる価値観をもつ人々が、いかにして「和解」による対話と共存の可能性を探りうるのか。七人の気鋭の神学者・聖書学者が集い、聖書における「和解」の思想を論じ尽くす意欲作。

A5判上製・352頁・定価4400円

日本キリスト教団出版局
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457
E-mail eigyou@bp.uccj.or.jp (価格10%税込)
<https://bp-uccj.jp>

中世を代表する巨匠の 珠玉の作品を精選

〈評者〉
松村良祐



キリスト教古典叢書

聖ボナヴェントウラ

著作選集

フランシスコ会日本管区監修

小高 毅編訳



本書は二〇二四年に没後七五〇周年を迎えたボナヴェントウラの著作から一六篇の作品を精選し、その全文を訳出したものである。

本書に収録されている作品は、(1)『三様の道』や『生命の完成』をはじめとする靈性神学に関するもの、(2)小さき兄弟会の全会員に宛てた『第一回状』などの書簡をはじめとする同会の総長としての活動に関するもの、(3)聖フランシスコや聖体の秘跡を主題とする各説教、(4)神学的著作(『ブレヴィロクイウム』)の四つに分類され、パリ大学教授や小さき兄弟会の総長をつとめたボナヴェントウラの多様な著述活動の全体を見渡すことができる構成になっている。

これら全一六篇のうち本邦初訳のものが七篇あるが、そのどれもがボナヴェントウラの思想の特徴がにじみ出た珠

玉の作品である。なかでも「一二二六二年の夕べの説教」にはフランシスコが受けた聖痕に対するボナヴェントウラの省察が示されているが、それは師父フランシスコに対して深い畏敬の念を寄せる修道士としての彼の姿を浮かび上がらせるものである。なお、巻末には本書に収録されている作品やボナヴェントウラの思想を紹介する解説がおかれ、読者が本書を読み進めるうえでのよき同伴者となることが期待されている。

ところで、本書が企画された背景には、ボナヴェントウラの思想が今日においてあまり顧みられなくなってしまうことがあるという(六四九―六五〇頁)。確かに、ボナヴェントウラとともに一三世紀を代表する神学者であるトマス・アキナスの著作が次々と邦訳・出版されていることに比べ、ボナヴェントウラの著作がほとんど邦訳されて

いないことは編者の懸念を裏付けるものであるかもしれない。しかし、二〇二四年はボナヴェントゥラと同じくトマスの没後七五〇周年にあたり、二人の神学者に関連した様々なイベントや国際シンポジウムが世界各地で開催された。一〇月にリスボンで開かれた学会で選ばれたテーマのひとつは「今日の哲学に対するトマスもしくはボナヴェントゥラの影響」であったが、それはトマスとボナヴェントゥラの思想を比較するだけでなく、両者が今日の哲学に対して持つ可能性を問おうとするものであった。日本における状況とは異なり、ボナヴェントゥラに対する関心は未だ衰えていないように思われる。また、近年ではボナヴェントゥラのみならず、彼がパリ大学で学んだラ・ロシエルのヨハネスやヘルズのアレクサンデルなど初期フランシスコ会士の思想を扱う研究も相次いで公刊され、ボナヴェントゥラの思想を新たに捉え直すにあたっての土台が整えられつつある。そして、そのような今日の状況からみたととき、本書の出版はまさに時宜にかなったものだと言えるだろう。

しかしながら、ボナヴェントゥラの没後から七五〇年を迎えた今日において、彼の思想はどのような意義をもつのだろうか。巻末において、編者は三位一体の神に関するボ

ナヴェントゥラの考察が相互に愛し合うのみならず、ともに愛し、ともに愛される個々のペルソナによる力強い愛の交わりに彩られ、われわれをそこへと導き入れようとするものであるという（六一―五二頁）。それは人間同士の交わりから遠ざかり、希薄になった社会を生きるわれわれに圧倒的なちからをもつて迫り、われわれの生のあり方を揺さぶるものであるといえるだろう。本書に収められた一六篇の作品から何を読み取るのかは読者であるわれわれに委ねられている。しかし、編者と同じく、ボナヴェントゥラの思索が現代において意義あるものとして受けとめられることを期待したい。

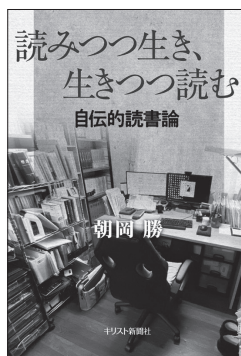
本書の訳文は、ときに複雑な議論が含まれているにもかかわらず、とても読みやすい滑らかなものである。本書をもとに日本におけるボナヴェントゥラ研究がさらに深められ広げられることを期待するとともに、中世を代表するこの巨匠の作品をこのように翻訳してくださった訳者の多大な労に心から感謝したい。

（まつむら・りょうすけ 藤女子大学准教授）

（A5判・六六八頁・定価九六八〇円・教文館）

豊かな読書経験への招き

〈評者〉石原知弘



読みつつき、
生きつつ読む
自伝的読書論
朝岡 勝著



本書は、著者が自らの歩みを振り返りながらこれまで読んできた書物について論じる、副題にあるとおり「自伝的読書論」です。執筆のきっかけは、友人たちとの会話の中でそうした本を書いてはどうかという話になったことと、ちょうどその日に出版社から同様の依頼が届いたことであったと「あとがき」に記されています。まず今の文章を記している私がその会話をした一人であることを告白しておきます。ですから評者としてはあまりふさわしくないかもしれませんが、著者の二〇代の頃からの読書遍歴を近くで見学ばせてもらってきた者として、その恵みが本書を通して多くの方に届けられることをうれしく思います。

著者はこれまでの歩みを以下のようにおよそ一〇年ごとに区切りながら、それぞれの年代での読書のあり方を捉え、実際に読んだ本を紹介していきます。「少しずつ本と出

会っていった一〇代から二〇代前半」「たくさん本を集め、読んだ二〇代後半から三〇代前半」「読まざるをえないものを読むようになった三〇代後半から四〇代前半」「土台が固まり、思考が動き始めた四〇代後半から五〇代前半」。年齢を重ねて立場や働きが変化していく中で書物との向き合い方も変わってきたことがうかがえます。紹介されるのは神学書が中心ですが、小説やノンフィクションの書物も取り上げられているので、広く多くの方が関心をもって読むことができるのではないかと思います。

多くの書物とともに、決定的な一冊との出会いというところの大切さも本書から教えられます。特に神学校に入学する直前の一八歳のときに読んだという渡辺信夫先生の『教会論入門』は、大きな影響を受けた書物として、四〇代半ばを過ぎた頃の歩みについて述べられるところでもあらた

業界の「今」を網羅

教会・学校・団体・マスコミは必携

キリスト教年鑑

2024-2025



キリスト教年鑑編集委員会 編

日本で唯一の キリスト教総合年鑑

2023年10月～2024年12月の記録とともに全国の教会、学園、施設、人名などの情報を網羅。1948年の創刊以来、通巻67巻。

B5判・上製・1182頁・
定価 18,700円 (本体 17,000円+税)

キリスト新聞社 since 1946

112-0014 東京都文京区関口1-44-4
宗屋関口ビル7階 TEL 03-5579-2432

めてふれられています。こうした一書との出会いと長く続く対話も読書の醍醐味です。

自伝的な叙述が中心ですが、第一章には著者がどのよう
に本を読んでいるか、本の探し方から買い方まで具体的な
読書のための手引きが記されています。また最後の第七章
では、今後の自分自身の課題図書などをあげるとともに、
教会で本を読む文化を盛んにしたいという願いが述べられ
ます。本書で多くの書物が紹介されるのは、自らの読書量
を誇るためではなく、教会の仲間たちを豊かな読書経験へ
と招くためです。巻末には附録として「本書に登場してき
た本たち」が一覧として挙げられ、読んだ本については
チェックができるようにもなっているので、個人でも教会
でも参考にしながら読んでいくことができます。

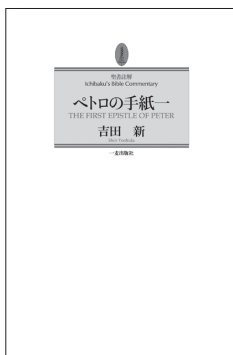
自伝とはその著者の人物像や大切にしていることが最も
よくあらわれるものですが、本書についてもそのように言
えます。著者はこれまで「読む」と題された書物を多く著
してきました。同時に「生きる」という言葉が書名や副題
についた著作も多くあり（ぜひ調べてみてください）、今
回その両方が「つつ」で結ばれたわけです。著者は本との
出会いは人格との出会いであると述べていますが、読者は
本書を通してまさに著者の人格と出会うことでしょう。

もっとも、著者自身も本書の中で記しているとおり、自
伝を記すというにはまだまだ若い年齢です。これからも読
みつつ生き、生きつつ読んでいただいで、その得られたと
ころを分かち合っていたきたいと心から願うものです。

（いしはら・ともひろ 〓 日本キリスト改革派東京恩寵教会牧師）
（四六判・二一六頁・定価一六五〇円・キリスト新聞社）

本格的かつ エンサイクロペディックな註解書

〈評者〉石田 学



聖書註解
ペトロの手紙一
吉田 新著



「ペトロの手紙一」は、ルターが高く評価したにもかかわらず、教会の歴史の中であまり注目されず、時としてその内容が困惑の原因ともなり、礼拝説教の聖書箇所として選ばれることの少ない文書である。Iペトロ書を単独で扱った日本語註解書は、ごく古いものを除いて刊行されておらず、新約聖書註解の一部として収録されているだけであった。数年前、筆者はIペトロ書からの連続説教をするにあたり、釈義に必要な註解書を求め、改めてその少なさに驚かされた。その時に本書が刊行されていたなら、どれほど助けになったことであろうか。このたびIペトロ書の本格的かつエンサイクロペディックな註解書が日本人聖書学者によって、翻訳ではなく日本語で刊行されたことは何よりの喜びである。本書は緻密な原典分析と豊富な文献に裏付けられた詳細かつ最新の註解というだけではなく、い

くつかの重要な点において極めて特徴的である。第一に、「Iペトロ書の構造と成立状況」「Iペトロ書の文学的、神学的特性について」「Iペトロ書の社会訓、家庭訓について」と題する九〇ページにわたる三つの章が序説として冒頭におかれている。Iペトロ書はいわゆる家庭訓が重要な意味を持つが、著者は序説第3章で他の新約文書の社会訓、家庭訓との比較に基づいて、Iペトロ書の社会訓・家庭訓が終末論的特徴を持つことを明らかにしている。序説は、本書の註解を読むにあたり、Iペトロ書の特質と背景だけでなく、その時代の教会、特に辺境の地に生きたる教会の置かれていた史的状况を読者に予め理解させてくれる。

第二に、本書の全体に亘り、随所に簡潔だが有益な補足説明・解説が挿入されている。それらはIペトロ書に直接関連することだけでなく、一世紀末にキリスト教がおかれ

ていた史的・社会的な状況についても考察している。たとえば序説第1章には「周辺世界へのキリスト教の弁明と批判的言説」「皇帝によるキリスト教徒への弾圧について」「ユダヤ教とキリスト教の分離について」その他の補足項目が差し込まれている。こうした多岐にわたる補足的な解説は、序説だけでなく第2部の註解部分にも多く含まれているので、読者は註解部分を適切に理解するための有益な知識と情報を得ることができる。多くの場合、聖書註解書は必要な箇所だけを利用するものだが、本書は随所に興味深い補足説明が挿入されているので、全巻を楽しみながら通読することができる（わたしがそうであったように）。

第三に、日本語で書かれた本書は、当然のことながら日本語文献への言及が豊富である。欧文原書からの翻訳註解書の場合、引用や参考文献はほとんどが欧文であり、それらを日本で入手することは簡単ではない。日本語文献への言及が多いことは、さらなる学びをしたい人たちにとって文献の入手が比較的容易であり、研究の幅を広げることが可能にしてくれる。さらに本書が説教者にとって特に有意義なのは、主要な日本語聖書の訳を比較検討し評価していることである。著者はこの比較検討を意識的にこなしているように思う。著者が聖書の翻訳に深い関心を抱いてい

ることの証なのであろう。

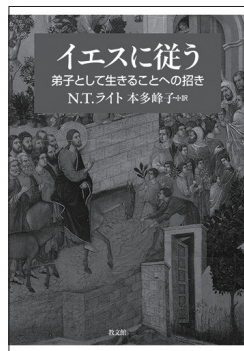
第四に、Iペトロ書全文の著者訳が巻末に収録されている。ほとんどの註解書で聖書本文は註解の箇所毎に分割されていて、本文全体をとおして読むことは想定されていない。翻訳註解書の場合、本文の翻訳は註解部分との関連性がいつそう間接的である。本書の最後に収録されているIペトロ書全文は、著者による註解の集大成としての全訳なので、なぜこう訳したかという解釈上の根拠を註解部分で確認することができる。

最後に、筆者の関心領域の一つである宣教学の視点から本書の意義を述べてみたい。日本の史的・社会的・文化的視点から聖書をどう読み文脈化（contextualize）してゆくのか。吉田新氏はドイツで学んだ日本の聖書学者として、註解書本来の枠を越えて、この宣教学的課題に正面から取り組んでいる。補論「Iペトロ2・17の影響史について」および3・8-16の註解と補論「報復の放棄について」の論考がこの註解書に含まれていることは感動的だ。本書を踏まえて、もう一度Iペトロ書からの連続説教に取り組みたいと思わされた。

（いしだ・まなぶ）日本聖書協合理事長・日本ナザレン教団無任所牧師
（菊井・四一〇頁・定価八五八〇円・一麦出版社）

現代における聖書的説教のモデル

〔評者〕 岩上敬人



イエスに従う

弟子として生きることへの招き

N・T・ライト著

本多峰子訳



本書は、N・T・ライトの講解説教集と呼ぶべき著作です。また聖書の説教を目指す全ての説教者の教科書であり、ライトが英国国教会の現場でどのような説教を語っているのかを知る貴重な書籍でもあります。第一部「イエスを見つめながら」の六章はライトがリッチフィールド大聖堂の司教として奉仕をしていた時期（一九九四―一九九九年）に、大聖堂に集う会衆に語った説教の中から収録したものです。ライトによれば、これらは聖餐式を執り行う礼拝での説教であり、聖餐式に備える目的があったことが書かれています。第二部「生きた犠牲」の六章はさまざまな大学や大聖堂での説教を収録したものです。

すでに日本でもいくつかのライトの著作が邦訳されていますが、ライトは研究書から児童向けに至るまで、実に多岐にわたる膨大な数の著作を執筆しています。本書は彼が

専門とする新約聖書学の研究書ではありませんが、ライトの聖書理解と様々なテキストの解釈、神学的統合の結晶とも言えるものでしょう。教会の会衆（クリスチャンや一般の人たち）や大学（院）生に語った、聖書の平易な解説であり、一九九〇年代の英国、欧州、西側世界の問題をどのようにに聖書から理解し、適用できるのかを示しています。そして本書全体を貫くテーマは、この世界にあつて、弟子として生きること、イエスに従うとはどのような生き方なのかを問うことです。

第一部の大きな特徴は、数節からなる引照箇所からの説教ではなく、中心的な聖句はあるものの、著者がその書全体を通して語ろうとするメッセージを解説し、語っていることです。そこには新約聖書研究者としての綿密な文学的、修辭学的分析と丁寧な解釈の積み重ねという確たる土台が

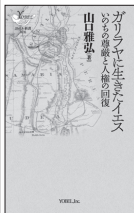


山口雅弘 ガリラヤに生きたイエスの「共食と共生」

生きるをいつくしむ

発売同時反響拡大！
イエスによる「神の国運動」、その中心は「共食と共生」であること！「キリスト教の原点」であるイエスの生き方を現代に回復することこそ急務。「平和」を求めるすべての人々に贈る力作！「イエスの「実像」と宣教の使信に迫る歴史批評的な検証の結晶」

第二弾！ 新書判美装・二八八頁・一六五〇円



山口雅弘 いのちの尊厳と人権の回復

ガリラヤに生きたイエス

傑作の第一弾！2刷出来！
〈宮城学院女子大学名誉教授〉新免貢先生（推薦）！
原始キリスト教史 廣石望氏…
キリスト教の「新生」を促す、キリスト教の根源的な問い直し！
新発寒教会牧師 清水和恵氏…
現代の新しいキリスト教解体新書！

第二弾！ 新書判美装・三三四頁・一六五〇円

ヨベル YOBEL Inc. info@yobel.co.jp
〒113-0033 東京都文京区本郷 4-1-1-5F
TEL.03(3818)4851 FAX.03(3818)4858
出版の手引き / 呈 (税込)

あります。その意味で本書は、ライトのような優れた新約聖書研究者だからこそ語ることができる内容となっているのです。第一部ではヘブライ人への手紙、コロサイの信徒への手紙、マタイによる福音書、ヨハネによる福音書、マルコによる福音書、ヨハネの黙示録のメッセージが語られています。それぞれの書の中核を成す神学的メッセージが平易な言葉で、しかも聴衆が日々向き合っている現実世界の諸問題と結び付けられながら語られています。

第二部では、主イエスの弟子である私たちが日常的に直面する「恐れ」について、死者を復活させる神の力により「恐れるな」と励まし（七章）、罪という暗闇の諸力に対して「新しい心」が与えられていることを指し示し（八章）、私たちの日々直面する「誘惑」について聖書的な光を与え

ています（九章）。最後の三つの章は私たちの将来にある「地獄」（十章）、「天国」（十一章）、「新しいいのち」（十二章）に目を向けさせてくれています。こうして私たちは、主イエスの弟子としてこの世界でいかに生きるのか、聖書からの指針を見いだすのです。

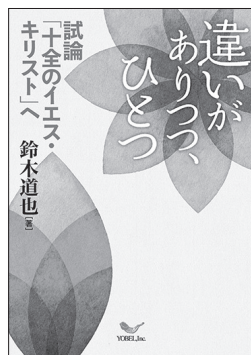
N・T・ライトの英語は時に難解な箇所があり、翻訳者泣かせの文章も多々あるのですが、本多峰子氏が、平易で頭にすっと入ってくる日本語に翻訳をしてくださいました。私たちは、本多氏の優れた翻訳を通して、言語の違いを超えて、ライトの思想の深みに触れることができるのです。

（いわがみ・たかひと日本福音同盟総主事／イムマヌエル総合伝道団牧師）

（四六判・二〇二頁・定価三三〇円・教文館）

赦し、和解、共生を求めた 現場からの提言

〈評者〉 佐藤司郎



違いがありつつ、ひとつ
試論「十全のイエス・キリスト」へ
鈴木道也著



本書を驚きをもって読ませていただきました。何よりもよく勉強しておられること、「伝統的な聖餐論と開かれた聖餐論」など、歩み寄りなど当事者がはじめから考えてい

ないように見える問題に大胆に切り込んで、新たな議論の地平を開こうとしていること、そしてそれらを分かりやすく提示しようとする努力など、今までにない独特の書物に仕上がっています。著者は日本基督教団花巻教会の鈴木道也牧師。牧会十三年目の気鋭の研究者です。

はじめに目次に従い主な内容を簡単に紹介しておきます。「第一部 違いがありつつ、ひとつ——四福音書の相違と相互補完性」。ここでは、福音書に関する五つの疑問を提示した上で（第一章）、各福音書の固有の「キリスト像」を明らかにし、最後に（第八章）四福音書が相違しつつも相互補完的に理解されるべきことを、キリスト教の歴史に

即して明らかにしています。ここで把握された「相違と相互補完性」が、以下本書で取り上げられている今日的諸問題の分析モデルです。

「第一部 「十全のイエス・キリスト」へ——伝統的な聖餐論と開かれた聖餐論の相違と相互補完性」。ここでは最初に聖餐とは何かを明らかにし（第一章）、次いで聖餐をめぐる現代の論議として、伝統的な聖餐論と開かれた聖餐論の二つの違った立場を解説し、それらの根底に「キリスト像」の相違のあることを指摘しています。キリスト観でもキリスト論でもなく、「キリスト像」を一貫して問題にしているのは著者の慧眼です。第三章は、本書の神学的な思考の基本でもある「十全のイエス・キリスト」論が展開されます。「十全のイエス・キリスト」という用語は本書の造語であると著者は断っています。そこには「ひとつの



新刊

聖書学論集55

日本聖書学研究所編

●A5判並製 80頁
定価3,300円(税込)

ルカ1章における ジェンダー

—規範の逆転、再生産、
あるいはその狭間—

安田真由子

善悪を知る悪しき人間

—原初史における人間観—

山吉智久

二つのユダヤ戦争と共同体 アイデンティティの模索 浅野淳博

アッカド語 文法

青島 忠一郎

●B5判並製 300頁
●定価4,400円(税込)

古代メソポタミアで主要な言語であったアッカド語。本書はアッカド語の基礎文法を日本語で本格的に学べる初の文法書です。楔形文字の読み方やアッカド語の発音に始まり、各種の文法事項をわかりやすく解説。

LITHON [リトン]

〒101-0061 千代田区神田三崎町2-9-5-402
☎045-433-5257 最後の一石。感謝

(A5判・四五二頁・定価三〇八〇円・ヨベル)

欠けもないこと」と「多様性がありつつひとつであること」の意味が込められています。神学の歴史に古くからある「全体的キリスト」(トートゥス・クリストゥス)とは違うようです。また人間論的領域も含むものとしてバルトなどが使った「包含的キリスト論」なども異なり、やはり著者独特の概念です。しかしとてもリアリティがある捉え方です。最後に、今後の課題として、第四章「内住のキリスト像」が記されます。

ことが説得的に論証されています。その上で著者の立場ははっきりしていて、こう述べています。「伝統的な聖餐論に立つ一部の人々によってなされた北村慈郎氏に対する『戒規免職』処分は本来、撤回されるべきです」。著者によっていいことにはならないし、意見の異なる人々の尊厳を軽んじていいということにもならない。「早急に教団内において聖餐の在り方についての対話が始められていくことを願っています」(二七三頁)。トランプ大統領が再び登場し、対立と分断が深まりかねない今日、赦し、そして和解と共生、これらを大切にする教会、また学校でありたいと、本書を読んで改めて思われました。

(さとう・しろう) 尚綱学院理事長・学院長

■キリスト新聞社

キリスト教年鑑——2024-2025版

キリスト教年鑑編集部編

2023年10月～2024年12月の記録とともに全国の教会、学園、施設、人名などの情報を網羅。1948年の創刊以来、通巻67巻。

B5判・1182頁・定価18700円

二世紀の友に贈る平和へのメッセージ

深谷松男著

長年法學研究に取り組み、キリスト教教育に携わってきた著者が、神から信託された人生を振り返り、平和への想いを次世代に託す。

四六判・234頁・定価1980円

■教文館

クレド

——キリスト教の伝統における信条と信仰告白の歴史的・神学的入門

J・ペリカン著、本城仰太訳

『キリスト教の伝統』（全五巻）で知られる教理史家ヤロスラフ・ペリカンの後期の代表作。古代から現代までの信条と信仰告白の歴史的・神学的研究。信条学研究の決定版！

A5判・784頁・定価9460円

INFORMATION

近刊情報

日本の教育における伝統思想とキリスト教学校の攻防

青山学院大学総合研究所編

森島 豊、島蘭 進、島田由紀、伊藤 悟、長山 道著

日本という国家は、どのような日本人像を理想として教育を推し進めてきたのか。教育思想史に焦点を当て、キリスト教学校が守ろうとしてきた人格形成教育と国家的教育政策の攻防を明らかにする。

四六判・274頁・定価2970円

■新教出版社

非戦と抵抗の教育——障害児教育の源流にあるもの

鈴木文治著

日本における障害児教育の源流を尋ねて信州教育に着目し、国家主義的な教育に抗して個性を尊重し非戦を唱えようとした教師たちの苦闘と挫折、その背後にあったキリスト教信仰に光を当てる。また著者自身の体験を踏まえ、自己責任を強調する現代の新自由主義的な風潮に抗してあるべき教育の姿を訴える。

四六判・229頁・予価2200円

■日本キリスト教団出版局

説教黙想アレテア叢書 創世記1～28章

日本キリスト教団出版局編

定評ある執筆陣が、聖書の原点・信仰の原点である創世記の重要単元と向き合った説教黙想集。序論と天地創造から

ヤコブ物語の「ベテルの夢」までを再録。

A5判・264頁(予定)・定価3520円

V T J 旧約聖書注解

列王記上17章〜列王記下2章

山我哲雄著

長大なエリヤ物語が成立した過程を、エリシヤ物語をはじめとする伝承との連関を鑑みつつ考察する。

A5判・450頁・定価7700円

N T J 新約聖書注解

ルカ福音書9章51節〜19章27節

嶺重 淑著

日本語話者に向けて書き下ろす聖書注解シリーズ。ガリラヤからエルサレムへ向かうイエスと弟子たちの旅を追った、ルカ福音書第二部の翻訳と詳細な注解。

A5判・562頁・定価7920円

説教黙想アレテア叢書

創世記29〜50章

日本キリスト教団出版局編

説教準備にも信徒の学びにも資する、創世記の重要単元の説教黙想集。ヤコブとラバンの出会いからヤコブ物語の大団円までと、論考「創世記の説教」を再録。

A5判・236頁(予定)・定価3520円

INFORMATION

近刊情報

聖書からの贈り物——祝福・励まし・慰めの聖句集

丹治めぐみ、左近 豊編

人生の節目や過渡期、困難なときに、心に響く聖句のコレクション。カードや手紙に書いて人に贈るもよし、自分でもよし、プレゼント本にもぜひ。

四六判・96頁(予定)・価格未定

増補改訂版 新約聖書の本文研究

——伝達・改悪・回復

B・M・メツガー、B・D・アーマン著

橋本滋男、前川 裕訳

私たちが手にする新約聖書本文の元となる膨大な写本や本文批評を、最新の研究を踏まえて解説する一冊。

A5判・440頁(予定)・価格未定

はじめてのヨハネ福音書

棟居 正著

四つの福音書の中でも独自の輝きと難しさをもつヨハネ福音書。初めから終わりまで、丁寧に解説しつづき読み進める。

A5判・144頁・定価2200円

希望へのメッセージ——受難・復活・聖霊降臨

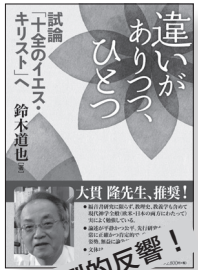
日本キリスト教団出版局編

受難週、イースター、ペンテコステを迎える「祈り」とショートメッセージ集。教会暦の重要な期節を過ごすための黙想を導く。

A5判・112頁(予定)・予価1200円

鈴木道也著 試論「十全のイエス・キリスト」へ 「違いがありつつ、ひとつ」

A5判・四五二頁・三〇八〇円



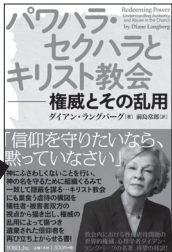
大貫隆先生推奨！…論述が平静かつ公平。先行研究からの引用は常に正確かつ肯定的で、自説の中へ統合する姿勢。無益に論争的などころがなく建設的。文体は一般読者向けで分かりやすい。図版は明快で読者の理解を大いに助ける。「いづれのみ真か？」ではなく、「いづれもまた真」でもなく、ひとつに結び合わされ、初めて見えてくる聖書の原風景！

D・ラングバーク 前島常郎 訳

権威とその乱用

四六判・二八八頁・一九八〇円

パウハラ・セクハラとキリスト教会



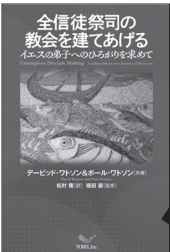
「信仰を守りたいなら、黙っていないさい」
神にふさわしくないことを行い、神の名を守るために組織ぐるみで一致して隠蔽を謀る…権威の乱用によって傷つき遺棄された信仰者を再び立ち上げさせる書！

D・ワトソン&P・ワトソン 訳者・松村隆／監修・福田崇

A5判変型・三〇四頁・一九八〇円

全信徒祭司の教会を建てあげる

全信徒が弟子、イエス運動の担い手。今までの宣教論を覆す大宣教命令親書。生活のすべての場所で聖霊の働きに拠りながら、できる限り非宗教的であろうと努力する。



山口雅弘 ガリヤに生きたイエスの「共食と共生」 「生きる」をいつくしむ

鋭意編集集中！
イエスによる「神の国運動」、その中心は「共に食し、共に生きる」と！



「キリスト教の原点」であるイエスの生き方を現代に回復することこそ急務。「平和」を求める全ての人々に贈る力作！ 第二弾！
新書判・二八〇頁・一六五〇円
既刊 ガリヤに生きたイエス 新書判・三二八頁・一六五〇円

I 物語集 金子晴勇キリスト教思想史の例話集 全6巻



キリスト教思想史を学ぶすべての人に、あたかも絵画を観るように理解できる例話集成！
第2巻 命題集 近日発売！
新書判・三二〇頁・一五四〇円

金子晴勇責任編集 ドイツ敬虔主義 著作集 全10巻

- 第1巻 シュベナー 敬虔なる願望 佐藤英史 金子晴勇訳
- 第2巻 シュベナー 新しい人間 山下和也訳 最新刊 四〇〇頁・三〇八〇円
- 第3巻 シュベナー 再生 金子晴勇訳
- 第4巻 フランケ 「回心開始と継続」 菱刈晃夫訳 第四回配本予定
- 第5巻 ベンゲル ブライモンと 探ふ道と言葉 若松功一 訳
- 第6巻 ツィンツェンドルフ 「福音的真理」 金子晴勇訳 第三回配本予定
- 第7巻 エーティンガー 「自伝」 喜多村得也訳 第五回配本予定
- 第8巻 エーティンガー 「聖なる哲学」 喜多村得也訳 二八八頁・三〇〇円
- 第9巻 テルステイゲン 「真理の道」 金子晴勇訳
- 第10巻 ドイツ敬虔主義の研究

画期的著作集 話題！

書店名	郵便番号	住所	電話	ファックス	URL	メール	郵便振替
北海道キリスト教書店	060-0807	札幌市北区北七条西6丁目	011-737-1721	011-747-5979	http://www.jp-shop.com	sasaki@jp-shop.com	02770-2-56520
善隣館書店	020-0025	盛岡市大沢川原3-2-37	019-654-1216	共用		zenrikan_systen_0530@ghoo.co.jp	02350-0-874
エッセイの木	980-0012	仙台市青葉区錦町1-13-6 エマオ1F	022-223-2736	022-302-6678	https://sendaicbs.uccj.jp/	info@sendaicbs.uccj.jp	02230-0-31152
恵泉書房	260-0021	千葉市中央区新館2-1 千葉カシヤセンタービル	043-238-1224	043-247-3072	http://www.keisen.christian.jp	keisen@vestia.ocn.ne.jp	00120-9-43619
教文館	104-0061	東京都中央区銀座4-5-1	03-3561-8448	03-3563-1288	http://www.kyobunkwan.co.jp	xbooks@kyobunkwan.co.jp	00120-2-11357
待長堂	167-0053	東京都杉並区西荻南3-16-1	03-3333-5778	共用	http://taishindo-books.jimbo.com/	taishindo@ej.com.home.ne.jp	00110-8-95827
バイブルハウス青山	104-0061	東京都中央区銀座4-5-1	03-3567-1995	03-3567-4435	http://biblehouse.jp	biblehouse@bible.or.jp	00160-2-18410
東京キリスト教書店	112-0014	文京区目黒1-44-4 塚原ビルB1Fキヨ子納(傍藤野門)	03-3260-5663	03-3260-5637		tokyo@nikkiban.co.jp	00130-3-60976
横浜キリスト教書店	231-0063	横浜市中区花咲町3-96	045-241-3820	045-241-5881	http://www.brighter.jp/~yokohamats/mba.html	sksch@mva.biglobe.ne.jp	00250-4-2512
清光書店	951-8114	新潟市営所通一番町313	025-229-0656	共用		00560-8-51419	
静岡聖文舎	420-0866	静岡市葵区西草深町20-26	054-260-6644	054-260-5612	http://www.s-seibun.co.jp/	info@s-seibun.co.jp	00810-8-26558
名古屋聖文舎	466-0045	岐阜市瑞穂区瑞穂16日本キリスト教団瑞穂会館	052-680-8090	052-680-8091	http://nagoya-seibunsha.la.coccan.jp/	nagoya-seibunsha@nifty.com	00810-5-14073
京都ヨルダン社	602-0854	京都市上京区荒神口通河原町東入ル	075-211-6675	075-211-2834	http://web.kyoto-net.or.jp/people/kjordan/	kjordan@mbox.kyoto-net.or.jp	01010-2-594
大阪キリスト教書店	530-0013	大阪市北区茶屋町2-30	06-6377-6026	06-6377-6027	http://osekacbs.web.fc2.com/	ochrbook@river.ocn.ne.jp	00990-3-43009
堺キリスト教書店(聖徳社)	591-8044	大阪府堺市北区中長尾町2F1-18	072-254-2233	共用		sakaix@outlook.jp	00970-0-172228
神戸キリスト教書店	650-0021	神戸市中央区三宮町3-9-18三陽ビル2F	078-331-7569	078-945-9388		kobex@nikkiban.co.jp	00170-2-421390
広島聖文舎	730-0841	広島市中区舟入町12-7	082-208-0022	082-208-0177		hseibun0951@yahoo.co.jp	01360-4-1958
リバーサイドブックス	779-1105	徳島県阿南市羽ノ浦町古大道/西13	090-8694-4986	050-3142-3017		ykwbt3@gmail.com	16220-17974891
松山キリスト教書店	790-0804	松山市中一万町1-23	089-921-5519	089-921-5413	http://www.geoties.jp/matsuyama_1007/mbs.html	sksch@dokidoki.ne.jp	01650-1-2120
新生館	810-0073	福岡市中央区舞鶴2-7-7	092-712-6123	092-781-5484	http://www.sinseikan.jp/	info@sinseikan.jp	01750-5-10932
キリスト教書店ハレルヤ	862-0971	熊本市大江4-20-23	096-372-3503	共用		k-haleruya@bible.or.jp	00160-2-18410
沖縄キリスト教書店	904-2143	沖縄県沖縄市知花4丁目12-33	098-927-0220	098-938-1102	https://www.okinawacbs.net	info@okinawacbs.net	01790-4-152916

※一般書店関係の方は 日キ販営業部 TEL 03-3260-5670 にご連絡ください。

福音と世界

2025年3月号

特集Ⅱキリスト教主義教育、現状と課題、そして意義と可能性

寄稿者Ⅱ中村信博、山中弘次、藤原佐和子

洪 伊約、藤守 麗、藤原佐和子

リレー連載「荊冠の神学」を読み直す4（鳥井新平）、好評インタビュー連載「女たちの闘い」（金必順さん）、証言としての旧約聖書（田島卓）、「日本のキリスト教」を読む（山口陽一）、新約釈義ルカ福音書（山崎ランサム和彦）他

A5判・定価660円・〒70円

定期購読についてはお気軽にご相談下さい。

新教出版社 TEL: 03-3260-6148

Email: sales@shinkyō-pb.com

から室集編

評について勉強した時に読んだ本である。

活字印刷の本に慣れきっていた当時の私には思いもよらなかったが、かつての本は筆写による写本によってのみ流通し、その過程では単純な写し間違いから意図的な改変まで、必然的に本文が崩れるリスクが付きまとう。注意深く写字され厳密な校訂を経て制作されていた聖書であってもそれは同様で、人類史上最大のベストセラーと言われる聖書には多くの写本があるが、そこには単語から文章まで大

予告

本のひろば

2025年4月号

本・批評と紹介

（巻頭エッセイ）「本と私、父、そして息子」高瀬一使徒

（特集）「子どもと祈るなら、この三冊！」小林よう子

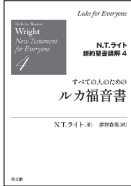
（書評）F・M・ヤング著『ギリシア教父の世界』他

小の異同が無数にある。それらの違いを比較検討することで「オリジナル」により近い本文を推定するのが本文批評なわけだが、この作業が面白い。異同が生まれた経緯を、写字の過程や写本の素性などから科学鑑定や写字生の心理まで踏まえて様々な角度から検証し、より「古い」本文を推定していくのはよくできた推理小説の謎解きを読んでいるようで、非常に興奮したことを覚えている。

聖書をここまで科学的・合理的に読むことができるというのも新鮮な驚きだった。聖書学というものがそもそも聖書を科学的に読むための学問なわけだが、こういった切り口は宗教になじみの薄い現代日本人にとっても興味深いのではないか。聖書の面白さをアピールする上でも有用だと思っただがどうだろうか。今後もっと取り上げて欲しい分野である。

（村上）

待望の新刊!



N・T・ライト新約聖書講解4
 すべての人のためのルカ福音書

有名な譬え話や人物たちに彩られたルカ福音書。ユダヤ・ローマ世界からイエスの福音を
 遍く伝えるメッセージを、新約聖書学の大家が鋭く説き明かす!

N・T・ライト 著 津村春英 訳

●四六判・並製・466頁・定価4,180円



聖書のことば辞典

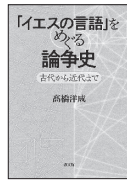
小友 聡 著

旧約では戦争は「聖なる」戦いなのか?
 「目には目を、歯には歯を」って

「復讐」を勧めているの?

「契約」裁き「選び」「メシア」など、旧約
 と新約を結ぶ50の重要な用語を解説。
 読者の素朴な疑問にやさしく答える。
 日本基督教団・福音主義教会連合機関
 紙に連載され、好評を博した「信徒のた
 めの旧約用語基礎知識」に大幅に加筆。
 信徒の学びはもちろん、教団教師検定
 試験対策にも必携!

●四六判・並製・186頁・定価1,980円



「イエスの言語」をめぐる論争史
 古代から近代まで
 高橋洋成 著

「ヘブライ語やアラム語とは何か?」
 「イエス時代のユダヤ人の言語」に冠された
 様々な呼称について、聖書など諸文献の分
 析を通してその由来を探り、各時代の研究
 における言語観の相違を読み解く。

●A5判・上製・336頁・定価7,040円



〈出会い〉の旅
 わが師 わが友
 宮田光雄 著

力強く、落ち着いて、喜びをもつて!
 東大で出会った恩師・南原繁、堀豊彦、丸山
 眞男や先輩や親友たち、ヨーロッパで出会った
 カールバルトやヨハネス・ラウ大統領そして
 大江健三郎、隅谷三喜男、井上良雄――
 著者が深い影響を受けた人格や書物との
 〈出会い〉のものがたり。

●四六判・並製・298頁・定価2,200円



ユーモア入門

人生を楽しむ7法則

宮平 望著 (みやひら・のぞむ氏は西南学院大学教授)

2月21日

神学者バルトの標語は「力強く、落ち着いて、ユーモアをもって」だった。彼は厳しい状況でも人生を楽しむ達人だった。ではユーモアとは何か？ 聖書はもとより落語まで含む古今東西のジョークを参看し、その多様な形と本質を探る。読みながらついでに頬が緩むこと請け合い。

A5判・定価2310円



戦後日本とキリスト教

敗戦の混乱期から社会制度の確立期まで 戦後の原点を問う

2月14日

富坂キリスト教センター編 敗戦後の急激な社会変革にキリスト教

界はどう対応したのか。占領期の宗教政策、キリスト教ブーム、共産党問題、在日コリアン教会、沖縄の土地闘争、キリスト教女子教育などに着目。寄稿者：大久保正禎、落合建仁、寒河江健、李相勲、福山裕紀子、渡邊さゆり、原誠、戒能信生 四六判・定価2200円



倫理

DBW版新訳

キリスト教倫理の可能性！

大反響

デイトリヒ・ボンヘッファー著／宮田光雄監訳

ボンヘッファーがライフワークとして取り組み、ナチによる逮捕と刑死によってついに未完に終わった倫理学。新版全集第6巻(DBW6)は奇跡的に亡失を免れた草稿を徹底的に校訂し、膨大な脚注を付して、成立順に再構成。著者の構想を余すところなく明かにした。待望の完訳。 四六判・定価6930円



善き力

ボンヘッファーを描き出す12章

没後80年記念

イルゼ・テート著／岡野彩子訳 ボンヘッファーのテキストに誰より通暁する碩学が語った、12の視点からの刺激的論考。彼の信仰と神学の世界がより近くなる。 ◆四六判・定価3960円



◆四六判・定価3960円

平和の福音に生きる教会の宣言

日本キリスト改革派教会「平和宣言」と解説

2月21日

吉田隆、長谷部弘、弓矢健児、豊川慎〔共著〕

改革派教会が2023年の大会で採択した「平和宣言」は、教会が果たすべき責任を「平和をつくる」という視点から積極的に展開する。教会における学びの素材とされることを願って、本文と共に懇切な解説を施す。 ◆小 B6判・定価990円



本のひろば.com



一九五七年七月一日発行 第三種郵便物認可
二〇二五年三月一日発行 (毎月一回発行)
本のひろば 第八〇七号 二〇二五年三月号

発行所 〒112-0014 東京都文京区関口一丁目四十四番一 一般財団法人キリスト教文書センター
電話03-3260-6148
発行人 金子和人 編集人 村上正史
印刷所 モリモト印刷株式会社
発売所 日本キリスト教出版株式会社 電話03-3260-6148

定価七八円(税抜七一円) (¥63円)
一年分二二〇〇円(送料共)